

2012年度受託研究概要報告

沙弥島海水浴場海の家新築工事

研究メンバー

藤山哲朗	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
戸矢崎満男	先端芸術学部クラフト・美術学科教授
佐久間華	大学院助手

委託者

株式会社アートフロントギャラリー

研究概要

瀬戸内国際芸術祭は、瀬戸内海に点在する12の島と高松港・宇野港周辺を会場とした現代アートの祭典である。今回、その第二回である「瀬戸内国際芸術祭2013」にて、春季・沙弥島会場が開催されるに当たり、会場計画および関連施設のデザインを受託研究した。

美術作品の主展示会場となる「旧・沙弥小中学校」では、展覧会コンセプトに基づく会場構成、教室内展示、および校庭を用いた屋外展示スペースのデザインと設営が行われた。

同じく沙弥島内位置する海水浴場では、既存の海の家を建替え、坂出市営の「西ノ浜の家」として、芸術祭参加建築作品としても、また芸術祭開催会場ともなる建築のデザインを行った。

研究成果

芸術祭においては各作家により、沙弥島の歴史性・地域性をコンセプトにした作品が制作され、「旧・沙弥小中学校」もそれにふさわしい空間を提示できた。また、準備期間を含め地域住民はもとより、地域の大学である「香川大学」との共同での施設運営を行うことができた。同様に「西ノ浜の家」も地域のコミュニティ施設としての機能を担うことができた。

結果として、「沙弥島アートプロジェクトby神戸芸術工科大学」として公開された期間中（2013年3月20日から4月21日）、約7万人の来訪者があった。この内容は紀要「芸術工学2013」においても発表している。

また「旧・沙弥小中学校会場」は継続維持され、2013年10月には坂出市と本学共催の展覧会が行われ、「西ノ浜の家」もコミュニティ施設として継続利用されている。

